

大阪・玉櫛遺跡

たまくし

1 所在地 大阪府茨木市玉櫛二丁目

2 調査期間 二〇〇六年度調査 二〇〇六年(平18) 四月～二〇〇七年二月

3 発掘機関 (財)大阪府文化財センター

4 調査担当者 宮崎泰史・信田真美世・赤松佳奈

5 遺跡の種類 集落跡・水田跡

6 遺跡の年代 弥生時代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

玉櫛遺跡は、三島平野西部に立地する、弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。一九九〇年度の発見以降、大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センターにより継続して調査が行なわれており、一一世紀後葉～一五世紀の集落を検出している。

木簡は、調査区中央付近、同時期の集落の東側を限る、

一四世紀前葉の南北溝下層から、一点が出土した。溝は幅約九m深さ約一mで、水路の機能を想定している。二〇〇一年度調査で「蘇民将来」札が出土した溝の北側部分にあたる(本誌第二六号)。今回の調査区では西側に集落が展開しており、溝内には土器・陶磁器・木製品・金属製品など多種多様な遺物が含まれていた。上層からは、底部外面に「上」の墨書をもつ白磁碗が出土している。

8 木簡の积文・内容

(1) ・「蘇民将来之子孫住宅門也」

・「 九々八十一 二十七八」

156×27×3 011

上端と左右両辺は削り、下端は切断して成形している。

(信田真美世・赤松佳奈)

